



### 山野草 ヤマラッキョウ

ヒガンバナ科ネギ属の植物。山に生えるラッキョウという名前だが、山でも湿原などの湿った場所に生育。草丈は30～50cm、開花時期は9～11月、日当りを好み、野に咲く可憐な花。花茎を直立させてその先端に紫色ぼんぼん状の花序を付ける。

# とうめい news

2022.10.1  
Vol. 254

〒249-0034 厚木市船子237  
TEL. 046-229-3377  
発行者:河野 昌史  
編集責任者:和田 博貴  
印刷:(有)タイム21

ホームページアドレス <http://www.tomei.or.jp/clinic/>

## TOPICS

### 頸動脈病変について

脳神経外科:鬼塚 圭一郎

頸動脈をご存じでしょうか？首の上に手を置くとドクドクと触れる血管です。生死の確認をする血管でもあります。

頸動脈は動脈硬化の現れやすい血管で、この動脈硬化は糖尿病や高血圧、脂質異常症、喫煙歴のある方に起こりやすい病変です。

このような病変があると、血管壁に炎症が起こり、血管新生し、そこが破れて出血が起こります。

(血管新生：既存の血管から新たな血管が分岐して血管網を構築する生理現象。)

また、だんだん血管壁が厚くなることで、血液の通り道が狭くなり、脳への血流が低下することと、プラーク表面に血栓ができ、それが血流に乗って飛んでいくことで、脳梗塞になります。

(プラーク(粥腫(じゅくしゅ))：血管内膜にコレステロールが蓄積してできた血管のコブ。粥腫(じゅくしゅ)と呼ばれるように、まさにお粥やポタージュのような状態になった成分も含む。)

頸動脈の一番簡単な検査としては、頸動脈エコーといわれる超音波検査があります。

これによって頸動脈の壁の厚さ、成分の性状(柔らかい、硬い)、血流速度(通り道が狭いと早くなる)などがわかります。また時には血流と共に動いているプラークもあります。

これらの病変は症状が出てから治療されることもあれば、症状が出る前に、予防的に治療されることもあります。外科治療としては、頸部を切開し、頸動脈を露出し、血管を切り開いてプラークを取り除く方法(頸動脈内膜剥離術CEA)と、血管の中から、カテーテルやステントといわれる金属製の支柱で広げる方法(頸動脈ステント留置術CAS)があります。

以下にそれぞれの治療の長所・短所を上げさせていただきます。

#### 〈頸動脈内膜剥離術:CEA〉

##### 長所

- ・再発が少ない

##### 短所

- ・手術後に一時的に飲み込みがしづらくなることがある
- ・傷の腫れがでることがある

#### 〈頸動脈ステント留置術:CAS〉

##### 長所

- ・手術時間が2～3時間と短い
- ・入院期間が短い

##### 短所

- ・曲がった血管には不向き
- ・プラークに柔らかい成分が多いと脳梗塞の合併につながる可能性がある
- ・プラークに硬い成分が多いと十分血管が広がらないことがある
- ・手術後に血液をサラサラにする薬を一定期間内服しなければいけないことがある

どちらの治療も東名厚木病院で行える体制が整っています。ただし、多くの頸動脈病変は薬物治療で経過観察されています。

頸動脈病変を指摘され、心配な方は脳神経外科、脳神経内科へご相談ください。



CAS前



CAS後



摘出したプラーク